

## 白竜湖の伝説

今では白竜湖の底になってしまおうたが、昔、白川はくがわ(今は箱川はこがわ)の里に「ゆり」という美しくて気だてのよい娘がおったそうじゃ。おじいさん、おばあさんに育てられたが、よく働く申し分のない娘じゃった。ところがいつからか、夜こっそりと家をぬけ出すようになってのお、心配したおじいさんは「今夜こそは」と、後を追ったんじゃ。娘はそんなこととは知らず、坂田淵のほとりへ行つて誰かを待ちよるんじゃ。

やがて、岩かげから立派な若者が出てきて、ゆりに近づいて行つた時、水に映つた若者の姿を見たおじいさんは「あつ」と声を上げたんじゃ。なんとそれは白い大きな蛇じゃった。

うらめしそうにふりかえつた若者は、白い竜になつてたちまちにして身をひるがえして淵にとびこんでしまおうた。

ゆりは若者のことが忘れられず、何日かして淵に身をなげてしまおうたということよのお。かわいそうなことじゃ。



これからこの淵からは、竜のなき声のような水音がきこえてくるようになったんじゃ。これを高瀬の水音というて、小田の人はこの水音で天気を占つたそうじゃよ。

小田川と椋梨川の合流する所が、水の流れが激しくて、白い竜が口を開けて川の水をのみ込んでいるように見えていた。という人もいて、白竜の悲しい伝説は今に伝えられているんじゃ。

今でも、白竜湖には二匹の白竜が寄りそうようにして住んでいるということじゃが…。

## 深山の観音さん

古い話じゃ。昔、深山には甘露寺というお寺があつたんじゃ。大曲りを少し下がつたところに椋梨川をはさんで広いところがあつて、ここに観音さんを祭つたお寺があつたそうじゃ。深山峡の駐車場のあるあたりに三本松の看板があるがのお、その辺りが山門になつていてここにあつた山門の松がいつの間にか三本松と呼ばれたんじゃ。

この観音さん、まだ見ぬ世界のことをいろいろ聞きますので、「海」というものを見たくてしようがありません。ある年に大雨になり深山の川はどつぷりと流れる水に埋もれました。お寺は流されて、観音さんも流されてしまひんさつたそうじゃ。

永年の念願が叶つて、瀬戸の海におりんさつたが、「ああ、広いきれいな海じゃのお。」と、黄金の輝きもあざやかによるこんでおりましたんじゃ。三山みやま(深山みやま)新左衛門ちゅう輛の漁師の網にかかりんさつて、この仏のお慈悲に満ちたお姿を見て、仲間の漁師と相談して輛の岬の突っ端にお堂を建てておまつりしたそうじゃ。その当時は小田観音と呼ばれておりんさつたが、今では阿伏兔の観音様として有名になつたります。ありがたいことですよ。

